



一般財団法人 自治体国際化協会 総務部企画調査課長

梅本 祐子

Yuko Umemoto

平成21年 4月 総務省採用
同 消防庁国民保護・防災部防災課
平成21年 8月 長崎県地域振興部市町振興課
平成22年 4月 長崎県総務部財政課
平成23年 4月 総務省行政管理局管理官付
平成25年 4月 同 自治税務局市町村税課
平成27年 3月 厚生労働省社会・援護局総務課
平成27年 7月 総務省大臣官房企画課
平成27年 9月 産休・育休
平成28年 4月 現職

多様な目線を大切に

国際的な仕事とは？

「総務省は日本全国を飛び回るイメージが強いけど、国際的な仕事をするチャンスはあるのだろうか。」

このパンフレットを手にとっている学生さんの中には、このような疑問を持っている方も多いのではないのでしょうか。私は今、自治体国際化協会というところで「自治体の国際化」に対する色々なサポートを行っています。「自治体の国際化」と一言で言っても内容は様々です。海外で特産品を販売して市場を広げたいという自治体もあれば、もっと外国人観光客に来てほしい、在住外国人にとってもっと住みやすいまちにしたい、という自治体もあります。それぞれのニーズに応じて、東京本部と7つの海外事務所が協力し、国内・海外両方で自治体を支援しています。実際色々な支援をすると、想像以上に自治体と海外のつながりは多様であり、そして自治体の視野が海外まで広がっていることを肌で感じます。現に総務省でも、海外留学や大使館勤務という一般的にイメージされる国際的なフィールドで活躍する職員だけでなく、自治体の国際担当課長という形で国際的な仕事に関わる職員も増えています。国内外問わず国際的なフィールドはこれからさらに広がると同時に、私たちには、世界の中の日本を客観的に捉える目線がますます求められていくと実感しています。

行政のユーザーとして

入省してから8年間、様々なフィールドに身を置き、そのたびに新たな目線・価値観を学んできましたが、プライベートでは、妊娠・出産を機に、一人の母親として行政サービスのユーザー側に立つ機会が増えました。保育園に入った、予防接種を受けたり、子育てをしていると行政サービスを受ける場面が多々あります。制度を作る側の国家公務員である私も、子育てという場面では、一人の母親であり、行政サービスを受ける住民です。行政サービスに対して有難いと思うこともあれば、正直不満を抱くこともあります。総務省が地方赴任を通じて自治体目線・住民目線を学ぶことを大切にしているように、国家公務員として制度を作るときに、ユーザー目線から見てどうなのかと想像力を働かせることは必要不可欠です。一人の母親としての住民目線が国家公務員としても大切な経験であると思いつつ、日々子育てに奮闘しています。

幅広いフィールドで新たな自分と出会う

私は、様々なフィールドに身を投げ、多様な目線・価値観を学ぶことで、個々人の視野を広げ人間力を高めてくれる総務省に魅力を感じ、8年前に入省しました。多様な目線を学び、多様な価値観を理解することは、よりよい制度作りにつな

がると同時に、新たな自分との出会いでもあります。入省前には自分が思いもしなかったフィールドに飛び込み、そこで触れた目線や価値観のおかげで、8年前には想像もしていなかった新たな自分に出会うことができたように思います。これから社会人としての第一歩を踏み出す皆さんの未来は、どういうフィールドに身を置くかによって、無限に広がる可能性を秘めています。様々なフィールドが用意されている総務省に飛び込んで、多様な目線や価値観に触れ、新たな自分を見つけてみませんか。



公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会準備運営第一局大会計画部運営戦略企画部企画課長

帆足 雅史

Masafumi Hoashi

平成13年 4月 総務省採用
同 行政評価局評価監視官付(独立行政法人担当)
同 行政管理局企画調整課企画調整係
平成14年 4月 同 行政管理局企画調整課企画調整係
平成15年 4月 内閣官房副長官補付財務担当主査
平成17年 4月 総務省行政管理局行政情報システム企画課最速推進係長
平成20年 7月 同 人事・恩給局公務員高齢対策課課長補佐
平成21年 7月 内閣官房内閣総務官室国会専門官
平成23年 8月 総務省人事・恩給局人事政策課課長補佐
平成24年 2月 内閣府大臣政務官秘書官
平成24年 10月 内閣官房IT総合戦略室参事官補佐
平成26年 9月 同 内閣人事局高齢対策担当参事官補佐
平成27年 8月 総務省行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室専門官
平成28年 7月 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会準備運営第一局運営戦略企画部企画課長

東京2020と総務省

東京2020組織委員会について

組織委員会は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて、オールジャパン体制の中心となり、大会の準備及び運営に関する事業を行っています。東京2020大会では、開催に必要な機能や業務を52のFA(ファンクショナルエリア)として明確化し、私の所属する大会準備運営第一局ではそのうち20FAを担当しています。

私はまず大会計画部調整課長として、大会までに加速的に増加する局内の人員管理や予算執行のとりまとめなど、各FA間の効果的・効率的な連携に向けた調整を行っています。また、運営戦略企画部企画課長としては、大会時の各競技会場における運営体制について、各会場や各競技の特性を踏まえながら、最適な組織構造等を議論しています。

さらに、セレモニー部式典課担当課長として、東京都などの地方自治体をはじめとした様々な関係者と調整しながら、聖火リレーのオペレーションの具体化を進めています。

多士済々

組織委員会の人材はとても多彩です。開催都市の東京都は勿論、23区をはじめとした地方自治体の方々、スポンサー企業からの出向者、医



者や弁護士などの専門人材、過去大会経験者などの海外人材など、非常に多様なバックグラウンドを持つ人々が日々議論しながら、そのノウハウや経験の最適化が図られています。

私は3人の部長に仕えています。その出身母体も東京都、電機メーカー、広告代理店と三者三様です。国からの出向者も、総務省をはじめ、文部科学省、財務省、厚生労働省、農林水産省、法務省など各省庁にまたがっています。

職員の方々だけでなく、関係者の方々も多岐に渡ります。国内外のスポーツ団体、外資系コンサル、学識経験者などなど、枚挙にいとまがないくらい多種多様な方々のご協力を頂きながら一丸になって東京2020大会の成功を目指しています。

個人的にはこれまで4度ほど内閣官房に出向し、各府省や民間の方々と仕事してきた経験は結構ありましたが、ここまで大規模でヴァリエーションに富んだ職場はありませんでした。特に普段の行政領域を超えた、おそらく一生に一回であろう、東京のオリンピック・パラリンピックに携わるという経験は、とても貴重な成長の機会と感じています。

前例のない世界での総務省の経験

このような多彩でほとんどの人が経験したことがない、オリンピック・パラリンピックという世界でも、これまで総務省を通じて培った経験、例えば人員管理、チームストラクチャーのデザイ

ン、プロジェクトマネジメント、EA(エンタープライズアーキテクチャー)や様々なステイクホルダーとの調整などが思った以上に活きています。

様々な変化の進展によって、これから前例のない世界に對峙する機会がますます多くなると思いますが、是非、総務省において、これまでの領域にとどまらない若い感性を發揮して、この国を創ってほしいと思います。そのようなキャラクターや活躍する場がこの総務省には間違いなくありますし、その経験は世界最大のスポーツの祭典のような場でも活かせるでしょう。



近くの公園で娘とシーソー対決です



休日はベースを弾いて気分転換しています